

第5学年1組 国語科学習指導案

平成21年6月9日(火)第4校時

授業者 教諭

- 1 単元名 話の組み立てや言葉づかいを考えてたずねよう
「インタビュー名人になろう」
- 2 単元の目標
 - ・相手とのやり取りを工夫しながら、進んでインタビューをすることができる。(関心・意欲・態度)
 - ・目的に沿って尋ねることを整理し内容をわかりやすくまとめて書くことができる。(書く)
 - ・目的や内容を明確にした上で相手に応じた言葉遣いでインタビューをし、話し手の答えを予想しながら話の内容を聞くことができる。(話す・聞く)
 - ・インタビューのとき、よく使われる敬語について理解することができる。(言語)

3 単元について
児童は、3年生の「進んで話し合い、発表しよう」、4年生の「調べて発表しよう」の単元で、相手に質問をしたことをまとめていく学習をしている。5年生になると、さらに総合的な学習の時間をはじめ様々な場面で、インタビューをする機会が多くなっていく。すでにインタビュー経験の豊富な児童も中にはいるが、本単元の学習を通してその仕方について振り返ってみることは、この時期の児童にとってたいへん意味がある。ここでしっかりと話し方の基本を身につけて今後活用できるようにさせていきたいと考えた。この単元での学習は、9月の「伝え合って考えよう」の単元学習につながっていくことになる。

4 児童について
インタビューの経験は児童の生活体験の違いにより様々である。学校生活の中での共通体験を取り上げてみても、児童は今までいろいろな形でインタビューをしてきている。工場や消防署の見学などの社会科見学で、自分が知りたいと思った内容について事前に用意した質問をすることはよくある。この形なら児童はさほど抵抗なくできるようになってきている。しかしこれは一問一答の一方的な形であり、あくまでもインタビューをするという目的としての活動である。相手の考えに対して臨機応変に対応しながら、自分の知りたい知識や情報を得ていくといった活動ができる児童はまだまだ少ない。放送委員などの一部の児童の中には、委員会担当のインタビュー活動などを通して、相手の話を聞きながら話を続けていくやり方を少しずつ身につけている児童もいる。

5 指導について
児童のこれまでの経験から、インタビューにおいては、あらかじめ決めておいたことを機械的に相手に聞き、質問に対する答えが得られればよいということが多かった。そこでこの単元の学習では、相手とのやり取りを工夫して、一步上のインタビューを目指していきたい。まずインタビューをする能力についてはかなり個人差があると思われるため、抵抗を感じている児童については、具体的な方法が身につくように支援をしながら楽しく取り組めるようにさせていきたい。学習の導入では、放送委員など、今までに校内放送などでインタビューを経験している児童の例を取り上げていきたい。また、一人一人が自信を持って取り組んでいくことができるように、教材やCDなどを使ってインタビューの良さと難しさをしっかり理解した上で、具体的な手順が身に付くようにさせていきたい。そして、インタビューは自分の知りたいことを知るために直接的で有効な手段であることを、児童が体験を通して理解し、今後の様々な場面で生かせるようにしていきたい。

6 指導計画(5時間配当)

時	学習内容	ねらい	関	話	書	読	言	評価基準
1	インタビューの目的を経験に基づき話し合う。	インタビューの目的を共通認識する。	◎	○				(関心・意欲・態度) 今までの経験をもとに意欲的に発表している。
2	教科書やCDを参考に、インタビューの良さと難しさを知る。	インタビューで大切なことを理解することができる。		○		◎		(読む)(話す・聞く) 教科書やCDを参考に大切なことを確かめることができる。
3	具体的な相手や目的を設定し、インタビューの内容をワークシートに書く。	インタビューの計画を立てることができる。			◎			(書く) インタビューの質問内容と答えの予想を、ワークシートに書くことができる。

4	インタビューする人とされる人を交代しながら練習する。	インタビューの計画をもとに友達と練習をすることができる。		◎	◎	○	(話す・聞く)(書く) 友達とインタビューの練習をしたりお互いの立場で評価をしたりできる。
5	前時で助言しあったことをもとに書き直した原稿で、さらに練習をする。	前時の練習をもとに、本番を想定した練習をする。		◎		○	(話す・聞く) 書き直した原稿をもとに、相手に応じた言葉遣いでインタビューの練習をすることができる。

7 本時の目標

インタビューの計画をもとに、相手に応じた言葉遣いで話したり、内容を正確に聞き取って受け答えをしたりすることができる。また、お互いの立場で評価をすることができる。

8 準備物

ワークシート、板書用資料（本時のめあて、評価の観点）

9 本時の学習過程

学 習 活 動	支援（・）と評価（☆）
<p>○本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>友達との練習を通して、さらに良いインタビューを考えていこう。</p> </div> <p>○インタビューする人とされる人を交代しながら、1回目の練習をする。</p> <p>○それぞれの立場で評価をしたことを、ワークシートに書く。</p> <p>○評価をもとにして、練習で気がついたことやインタビューの内容で修正したことなどをワークシートに書く。</p> <p>○2回目の練習をする。</p> <p>○学習を通して気がついたことを発表する。</p>	<p>・前時に書いたワークシートを見ながら、意欲を持てるようにする。</p> <p>・インタビューをした児童はワークシートに自己評価を書くようにする。 (計画に従ってインタビューができたか、インタビューをしていて難しかったことはなかったか、など)</p> <p>・インタビューを受けた児童はワークシートに相手の評価を書くようにする。 (質問内容と目的は合っているか、言葉遣いは適切か、予想外の答えが返ってきたときの一言は良かったか、など)</p> <p>☆観点に従って、インタビューをしたり評価をしたりすることができていたか。 (発言・ワークシート)</p> <p>・練習で気がついたことをワークシートに書き込むことで、より良くなっていく過程を自分で自覚できるようにする。</p> <p>☆練習したことを生かしてインタビューの内容を見直すことができたか。(ワークシート)</p> <p>・さらにより良いインタビューをめざしていけるようにする。</p> <p>・意欲を持って本番に取り組めるよう励ましていく。</p>

10 授業の観点

より良いインタビューをめざすために、友達との練習でワークシートを用いたことは有効であったか。